

介護施設の見学

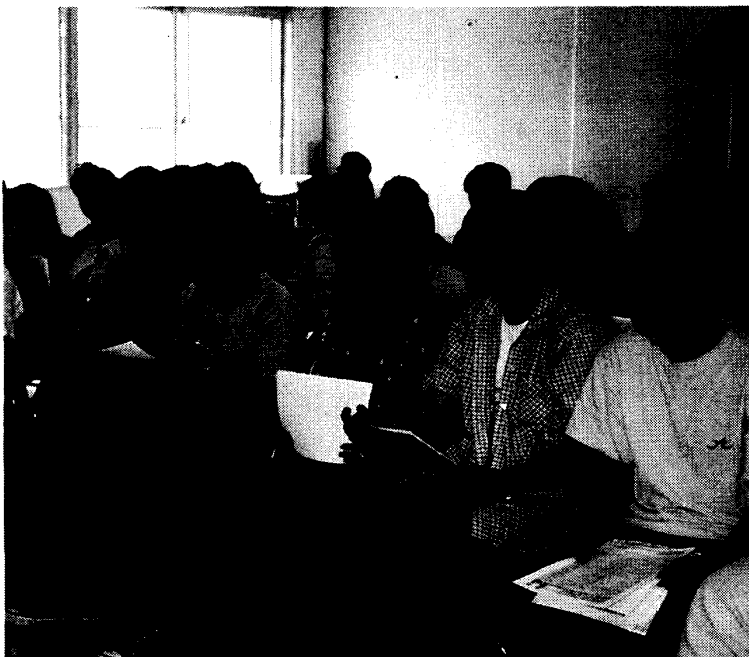
生活福祉科介護福祉専攻

田岡洋子

例年、施設実習に先駆けて老人保健施設である桜苑への見学を実行している。施設実習でお世話になっている中には老人保健施設がなく、この形態による介護施設をも理解させたいためである。説明を受け、施設内を案内していただいて、レポートを書く内容であるが、施設内の高齢者に対する配慮点など細かく理解でき、痴呆の方々のフロアやその他一般の方々のフロアの造りやタンス、ドアなどの扱いの違い、デイサービスフロアなどの特徴が理解でき、また、カタログだけでなく、介護用品が並べられ、触れてみることもできた。



後期に入り、いこいの村への見学を実施した。全国に5カ所しかない貴重な聴覚障害者の村である。身近にある施設で、身体障害者施設とは異なる。施設実習を受け入れてもらっている



が、第2・3段階の4週間実習のみであるため、4名しか経験ができない。そのために、他学生にも1日の経験ではあるが、いろいろ考えるところもあると実体験をさせている。単なる見学だけでなく、高齢者とともに梅の木作業所での作業に、紙すきまでの牛乳パックの紙をちぎり、紙漉をし、そこにかわいい貼り絵などしてやっと1枚の葉書やしおりになる。それぞれ分業されていて、その作業を高齢



の方々に習いながらさせていただいた。他にはわら草履造り、織物、ミシンによる袋などの制作、絵を描いておられる方など、手を取り教えていただき、コミュニケーションをとる難しさを感じながら出来たものは貰って帰った。その後、授産施設栗の木寮のしめ縄造りに挑戦です。お正月に向けて、生協さんへのルートをもって、いろいろな形の多くのしめ縄を製造、卸をしておられるそうです。作業を休んでおられる時であったにもかかわらず、学生全員が自分でしめ縄造りを経験し、造ったしめ縄を一つずつ頂いた。この見学では大矢先生の障害形態別授業の一環として催され、先生の講義やレポート提出があり、聴覚障害

者に対する介護の方法を考える一日体験見学であった。

